

佐久総合病院 本院基本構想（案）

平成 23 年 9 月 佐久総合病院

I. 基本理念・行動目標

基本理念

佐久病院は「農民とともに」の精神で、医療および文化活動をつうじ、住民のいのちと環境を守り、生きがいある暮らしが実現できるような地域づくりと、国際保健医療への貢献をめざします。

2004 年 12 月 7 日 改定

行動目標

1. 第一線医療の充実と高度専門医療の向上をはかり、地域完結型医療体制の確立を目指した病院再構築を実現します。
2. 農業と地域社会の問題を直視し、メディコ・ポリス構想の精神を継承して、地域の内発的発展に協働します。
3. 研究と教育は病院の重要な役割であることを自覚し、佐久病院らしい医師教育、職員教育および研究活動の充実をはかります。
4. プライマリ・ヘルス・ケアを包含する農村医学の考え方を学習し、実践するとともに、発展途上国の国際保健医療に貢献します。
5. 患者さんを第一に考え、医療の質向上および患者安全、職員満足度の向上を目的とする活動を推進します。

2011 年 4 月 1 日 改定

II. 病院機能

1) 診療内容

1 次・2 次救急医療を提供し、重篤な救急患者に対する一時処置を行う。

地域のニーズに即した一般医療機能を中心とした病院とする。

佐久総合病院が歴史的に培ってきた総合力をさらに高め、患者さんを中心に職種を超えたスタッフが自在に集まり、必要とされる医療を提供する。

2) 地域医療への取り組み

地域完結型医療供給体制の構築を進め、各診療科が地域の医療機関と連携して「いつでも・どこでも・だれでも」必要な医療サービスが受けられる体制を目指すとともに、在宅部門では地域ケアセンターを中心に、「命に対する援助と生活に対する援助」の両面からのケアを行う。

へき地医療拠点病院として、南佐久郡の国保診療所をはじめ、医師不足地域への医師派遣機能をおく。

3) 研修・教育・研究機能

農村医学を継承・発展させ、地に足のついた研究活動を奨励する。また医療・介護に携わる職員の教育や研修の場として充実した機能を備える。

家庭医能力を有する医師の養成を目指し、研修医の外来・病棟・諸検査研修等、様々な疾患と病態に対応できる研修・教育機能を実現する。プライマリ・ヘルス・ケアを包括的に研修できる教育機能を備える。

職種毎の研修のみに留まらず、他職種・他施設の医療者を交えた講習会・研修を行い、地域全体としてのスキルアップに努める。

4) 提供する医療の質

安全で質の高い医療を迅速に提供し、患者満足度・職員満足度がともに高い病院を目指す。

5) 地域社会との関係

地域住民の皆様との交流および文化活動をつうじて、ともに地域の発展に貢献する関係を築き、開かれた病院とする。

病院のあり方・地域のあり方・健康のあり方に関し、地域住民との対話ができる仕組みをつくる。

地域の「健康祭り」「健康合同会議」「地域医療懇談会」を共に継続・発展させる。

「医・職・食・住・友・遊・学・農」(※) がそろった地域づくりに協力する。

6) 社会的な使命と役割

医療の実践を通じて得られた知見に基づき、情報を発信し、皆がより健やかに暮らすことができる社会づくりに貢献する。

また、新病院はエコロジー技術を取り入れ、環境負荷に配慮した病院づくりのモデルを提示する。

7) 保健予防及び健康づくり活動への取り組み

健康づくりセンターを中心に、健康診断・人間ドック・健康相談・健康教育の充実を図り、潜在疾病の早期発見や予防に注力する。

8) 人生の終末期に寄り添い支える医療の提供

がんのみならず、あらゆる疾患、あらゆる年齢の終末期において、ご本人の希望に応じた場所（自宅・施設・病院）で適切な医療を提供する。

9) 福祉施設等の設立支援・運営支援と、福祉のまちづくりへの協力

高齢者の居住系施設や認知症の方のグループホーム、がん等の終末期医療を行う在宅ホスピス機能を持つ住宅の設立支援や運営支援を行う。

重症心身障害児等の通所看護や宿泊機能を持つ施設等の設立・運営を目指す。

現在行っている障害者の通所授産施設や NPO 組織の支援をはじめ、障害者雇用を積極的に支援する。

10) 国際保健医療への貢献

発展途上国を中心として海外で活躍する医療従事者を育成する。

JICA 等からの海外医療従事者の受入れ研修を行う。

国際農村医学に対して研究を進め、新たに得られた知見を積極的に発表する。

11) 総合医療・保健情報システム機能

佐久総合病院グループ内で電子カルテの情報、健康診断データと人間ドックデータの情報を共有する。

地域医療連携を推進し、地域の医療機関との診療情報の共有化を目指す。

12) 文化創造機能

病院祭、夏季大学をはじめ、様々な病院行事を地域住民の皆様との文化創造の場とする。

労働組合の文化・スポーツ活動をつうじ、地域とともに佐久地域の文化の発展に貢献する。

13) 佐久総合病院グループ全体を統括する本院機能をおく。

Ⅲ. 6つのセンターとそれらをつなぐ支援機能

1) 総合診療センター

Common Disease（一般的な病気）を各科専門医と協力して、総合的に診療する。

2) すこやか長寿センター

お年寄りがすこやかに長寿を全うできるように、様々な疾患を抱える高齢者を総合的に診療する。

3) すくすくこどもセンター

こどもたちがすくすくと育つように、小児の保健予防活動を行い、発達過程における様々な問題に対処すると共に、小児一般診療を行う。

4) こころのケアセンター

地域の方々が、その人らしく地域の中で暮らせるようなこころのケアを提供する。

5) 地域ケアセンター

障害をもった方々が、住み慣れた地域で生活が続けられるよう、様々な地域の医療福祉サービスと連携した地域ケアネットワークを構築し、必要なケアを提供する。

6) 健康づくりセンター

「予防は治療にまさる」をモットーに健康なときも、病気になっても、障害をもっても、健康を維持管理し、発展させるお手伝いをする。特に、糖尿病に代表される生活習慣病に対する指導に力を入れる。

支援機能

よろず相談センター

医療や健康に関する相談に幅広く対応し、各センター機能をつなぐ役割を担う。

地域リハビリセンター

6つのセンターの基盤として、その人らしい生活を取り戻す支援をする。

Ⅳ. 診療機能

○総合診療（内科系、外科系） ○専門外来（慢性維持透析・生活習慣病・精神・小児など）

○リハビリ ○日帰り・短期入院手術 ○在宅診療 ○救急診療（1次・2次）

Ⅴ. 病院概要

1) 病床数 300床（人間ドック含む）

2) 外来規模

想定外来患者数 900人/日（目標）

3) 診療科目（標榜診療科）

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経内科、心療内科、精神科、小児科、麻酔科、救急科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、歯科、矯正歯科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、皮膚科、アレルギー科、放射線診断科、病理診断科、

臨床検査科、リウマチ科、感染症内科

（院内標榜）総合診療科、地域ケア科、人間ドック科

4) 医師数

約60人

5) 諸指定

・認知症疾患医療センター ・へき地医療拠点病院 ・臨床研修指定病院
・高次脳機能障害拠点病院 ・救急告示病院 ・病院群輪番制病院

6) 併設施設

老人保健施設、訪問看護ステーション、やちほの家（宅老所）、居宅介護支援事業所、東洋医学研究所、医師・看護師宿舍、研修医研修棟、保育所

7) 関連施設

健康管理センター、看護専門学校、農村医学研究所、農村保健研修センター、農村保健教育ホール

(※)「医・職・食・住・友・遊・学・農」

医・・「地域医療」

職・・「職業」

食・・「安心安全な食事」

住・・「住宅・居住系福祉施設」

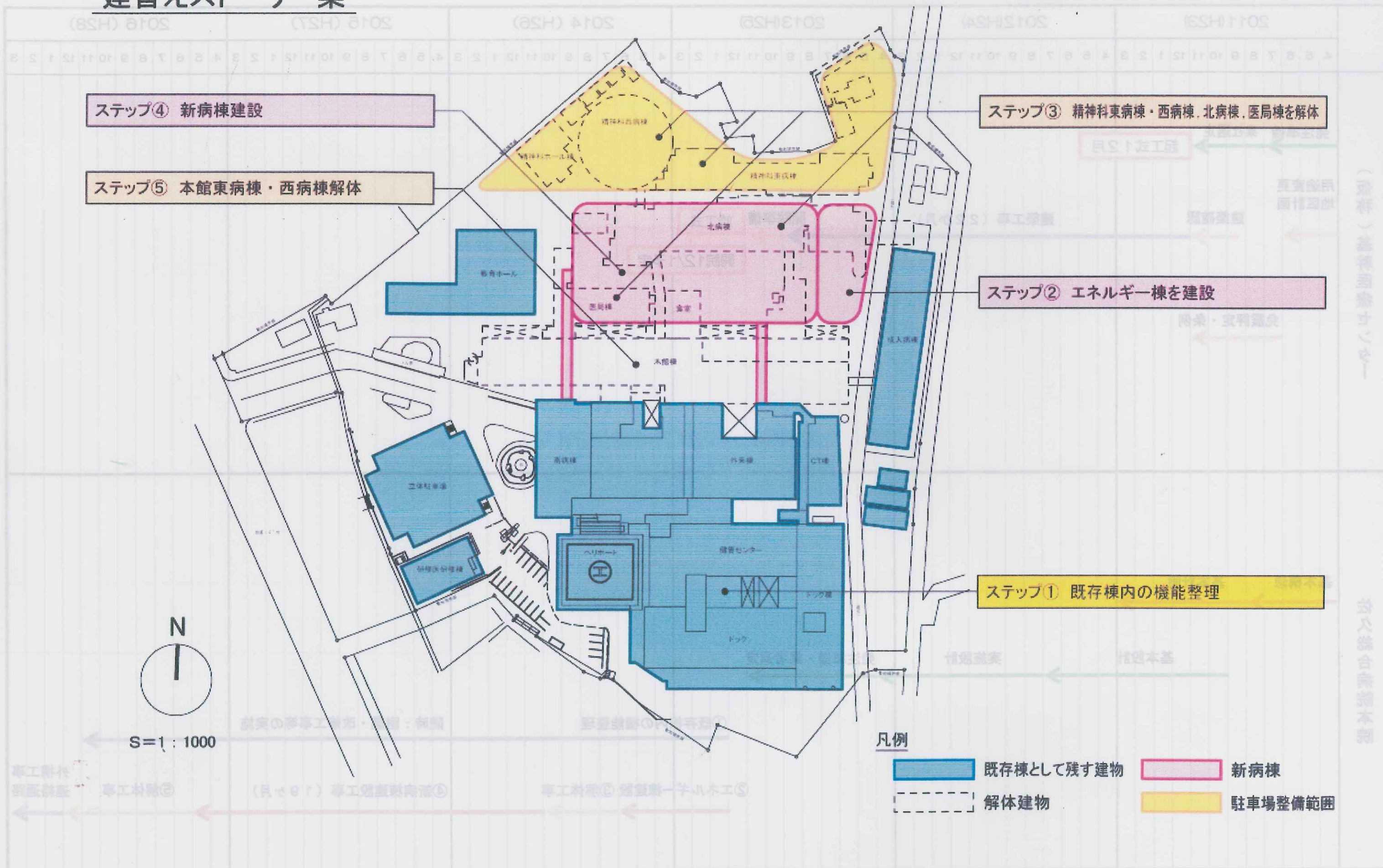
友・・「友人」

遊・・「遊び」

学・・「学び」

農・・「農業」

建替えストーリー案



佐久総合病院再構築 マスタースケジュール (案)

